

うその薬が命を救う

D6 班

宮城県仙台第三高等学校

思い込みの力を利用して病気の治療が可能であれば、医療の幅が広がるのが期待できる。治療費が大幅に削減できるため、患者の負担が減る。現在、わが国では高齢化に伴い、国が負担する医療費もかなり膨大な額になっているが、その負担も減らせるかもしれない。副作用もなく、夢のような治療法であるが、実現化するには多くの問題点が存在する。インフォームドコンセントの決まりに従って利用できることの問題や薬の成分表示について、また、効果についての個人差が大きいなど課題は山積みである。しかし、新たな規定を設けたり、薬の成分を調節することにより、実現化に近づくことができる。

1 背景

プラシーボ効果は思い込みによって患者に良い影響を与えることができるというものであり、科学的に証明されている。近年は、プラシーボ効果のメカニズムについても研究によって解明されつつある。この効果を利用したものの中に偽薬がある。偽薬は本物の薬と「外見」・「重さ」・「味覚」の三点を酷似させたものである。偽薬は主に地検において利用されている。患者に被験薬と偽薬を投与し、被験薬が偽薬よりも大きい効果が表れた場合のみに、開発中の薬の有効性が認められる。また、偽薬は患者の薬に対する期待値が大きいほど効果が出やすいといわれている。したがって、プラシーボ効果を最大限に引き出すには、患者がその薬を信じやすい環境づくりが重要である。そこで、実際に医療現場で偽薬を利用する際に、想定される問題点をあげ、それに対する解決策を考えた。

2 材料

○プラシーボ効果の実例

・手術後の鎮痛剤に対する実験

→手術後の患者に対し、初回は本物の鎮痛剤を投与したが、二回目はプラシーボを与えた。

→どちらも同じ鎮痛効果があらわれた。

・値段の異なる薬を使った実験

→プラシーボを一つのグループには一錠 200 円、もう一つのグループには一錠 10 円と言って飲ませた。

→同じプラシーボでも値段を高く設定したグループのほうが効力を発揮した。

○問題点は以下の通りである

①プラシーボの需要が少ない

治療の機会を奪ってしまうため、簡単に使用することができない。

②インフォームドコンセントに反してしまう

プラシーボを使用することを患者に伝えないため、治療の内容を十分に伝えることができない。

③薬の成分表示を書くことができない

お薬手帳や処方箋に何も書いていないと偽薬を使用していることがばれてしまう。

④プラシーボ効果に個人差が出てしまう。

騙されやすい人と、そうでない人がいる。

⑤薬の知名度上昇による効果の低下

患者が偽薬だと知るとプラシーボ効果の意味がなくなってしまう。

3 考察

一つ目の問題であるインフォームドコンセントについて、日本にはいくつか例外が存在する。患者との意思疎通が困難な場合や患者の病気ががんである場合だ。プラシーボ効果を利用する治療法をこの例外として扱える仕組みを作れば、非常に使いやすくなるだろう。また、そこまでせずとも簡単な解決策はある。プラシーボの中に薬効成分を少量混ぜればいいのだ。少しでも入っていれば、医者が患者に説明する際に助けになる。二つ目の問題に対して根本的な解決は不可能だ。しかし、この問題は逆にみると「治療する薬が存在しない病気」に対しては、プラシーボを使えるということだ。治療機会を奪うどころか、治療に成功する可能性を一つ増やすことになる。三つ目の問題に対して、対処は可能である。患者に対して副作用の話をしなければよいのだ。プラシーボ効果は、思い込みの結果であるため、そもそも知らなければ副作用は起こりえない。しかし、これをした場合、プラシーボを本物の薬だと思い込ませるのが難しくなる。薬とは大なり小なり副作用が伴っているものだからだ。どのような嘘で患者を騙すのか、医者腕が問われるだろう。四つ目の問題は、解決はできないが、遅延させることはできる。知名度の拡大はメディアによるものが大きい。メディアへの露出を抑えれば、一定の効果がみられるだろう。プラシーボは問題点が多いものの、うまく使えば多くの患者を救う可能性を秘めている。まだ治療法の存在しない病気などは、その典型的な例だろう。また、通常の薬と違って、価格を抑えることができるため、国の福祉費用の削減にもつながる。いつかプラシーボが治療選択肢の一つとなることを願っている。

4 参考文献

星薬科大学哲学研究室訪問時の質問回答資料

プラシーボ効果とは？実験7つと事例5つで活用法を徹底解説

<https://shin12.info/?p=2829>